

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190501817), 法人名 (株式会社風和里), 事業所名 (グループホームふわり藻岩下 1階), 所在地 (札幌市南区藻岩下4丁目2番7号), 自己評価作成日 (令和3年11月25日), 評価結果市町村受理日 (令和4年1月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌市の10ある行政区の一つであるここ南区は、市域の約6割を占める広大な面積を持ち、札幌の魅力の一つである豊かな緑や、市民の水源地のほとんどもこの大自然がになっており、そんな自然に恵まれた環境に立地しており、四季折々の変化を肌で感じる事が出来ます。歩いていると小動物に出会ったりとどこかほっとするような、穏やかな暮らしがここにはあります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kan=true&JigyosvoCd=0190501817-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年12月16日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

藻岩山の麓に位置する事業所は、眺望が良く見下ろすと札幌の市街地が広がり、スキー場も近く緑豊かな住宅地に在り、五感で自然を感じられ、終の棲家として利用者が穏やかに落ち着いたシルバーライフを過ごせる恵まれた環境である。屋内は床や天井の梁に木の温もりが感じられ、食卓椅子やソファはビタミナカラーのオレンジ色に統一、3方向から介助可能な浴槽、身体機能に対応して便座の配置も左右対称のトイレを設置するなど、快適な暮らしを支える拘りが窺える。今年度もコロナ禍で外部との交流が厳しい状況下のため、事業所内における掃除や食事に関連する作業などに積極的に参加頂き、得意分野で力を発揮出来るよう介護計画に反映させ、利用者の出来る力に着目した支援として取り組んでいる。開設から5年目を迎え、終の棲家として看取り介護を希望される時には、協力医療機関との連携体制を整えている。この度初めて看取りを経験し、家族と共に最後の時まで添い遂げ、想いに沿った支援を成し得るなど、職員は利用者の尊厳に配慮し、終末期介護に最善を尽くしている。看取り後は事業所での懐かしの写真をアルバムにして贈り、家族(遺族)へのグリーフケアにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着型サービス」を作成した運営理念がある。ホーム内、玄関、各ユニット内交流室に掲示し確認、共有し実践につなげている。	系列事業所共通の理念を策定し、事業所内の目に付きやすい箇所に掲示し、視覚からの意識付けに努めている。身体拘束適正化委員会時には理念に沿ったケアの確認を行っている。新人研修でも理念の理解を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との付き合いは、月一度の廃品回収	コロナ禍で地域との交流はほとんど自粛しており、職員は近隣者と挨拶を交わす程度であるが、地元の方からウエスの差し入れを受けている。回覧板で地域の情報を受けたり、廃品回収活動に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの運営状況、現状報告を行い、いただいた意見やアドバイスを反映し、さらなるサービス向上に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は本年度は書面での会議となっており、意見を吸い上げにくい状況である。	今年度の運営推進会議は5回開催されており、コロナ禍により書面会議としている。事業所の活動報告、利用者状況、事故・ヒヤリ報告、感染症防止対策を記載、報告して委員会メンバーの意見、要望を得て運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を伝え有効な対策を提案して頂いた。	行政との関わりは主に本部が中心となって対応している。コロナ感染症防止対策では保健所の指導を仰ぎ、綿密な対策を講じるなど、情報の提供と共有を図り協働関係を築いている。ZOOMを活用して感染症の研修を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員を中心に3か月に1度委員会、年3回の研修会(内・外)を行っている。	指針を定め、身体拘束等適正化委員会は運営推進会議内で定期的に開催している。講師を招いた法人合同研修では各自研修報告を提出、年2回の内部研修では身体拘束の弊害について理解を深めている。注意事項を書き記した表を掲示し、職員間に注意喚起を促している。センサー使用は介護計画で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での虐待防止の研修に職員全員が参加。ホーム全体のケアの見直し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	利用されている方はいるが、深く学ぶ機会は持っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約時に説明を十分に行い、ご理解頂けるよう時間をかけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、カンファレンス等の機会に意見、要望を確認している。又、運営推進会議でも確認できるよう強めている。	面会の条件を満たした家族は交流室で対面し、互いの安心に繋げている。ラインでのビデオ通話にも対応している。写真掲載の広報誌に加えて、利用者個々の情報を詳細に記した便りも毎月送付し、コロナ禍で会えない時間を補っている。意見や要望は来訪時や電話時に伺い、サービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個人面談などで意見や提案を聞く機会がある。本社から部長の参加があり意見を吸い上げている。	管理者は毎月の会議や年2回の個人面談等で職員の提案や要望を汲み取っている。本社部長の訪問が多く、年1回は個人面談を実施しており、事業所の状況を把握し乍ら、職員の意見、情報に耳を傾け、要望に対応し、管理者と調整を図っている。職員は各役割を担い、事業所は希望休や資格取得のサポート体制に努めるなど、運営や就労環境面に反映出来る様に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、今よりもスキル向上を意識し勤務できるよう環境や、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット会議や個人面談などで意見や提案を聞き個々のスキルの確認を行っている。初任者研修をはじめとする研修にも積極的に参加してもらいスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの研修に参加し交流を図っている。又3事業所合同の研修などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	過去の生活歴の情報に十分に目を通し把握することで、入居後も引き続き安全かつ安心して暮らせるように支援を行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ともコミュニケーションを密にとりながら（電話やライン等）情報共有できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様ご本人の気持ちを最優先し必要とされる支援を行うよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主体では行動せず、ご本人の想いを大切に寄り添った支援が出来る様心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族様のお気持ちを考え、支援することを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人からの便りには一緒に返事の内容を考えたり、代筆したりしている。	コロナ禍で面会条件は有るが、年1度は必ず友人の訪問を受ける利用者がいる。手紙やFAXで便りが届き、職員が代筆を努め返事を出し、継続支援に努めている。朝晩の洗顔、お手入れを欠かさず大切にしている習慣も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、洗濯物量などの活動を通し職員が間に入りながら入居者様同士の交流が図れる様努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、グループホームの機能として気軽に相談できるよう関係構築に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でご本人との会話や、表情から、希望や意向の把握に努めている。	掃除や食事の準備など生活の役割の要望を表せる利用者が5割程おり、その思いを尊重し、職員は連絡ノートで共有を図り、ケアプランに反映させている。困難な場合は家族からの情報や日々の様子を推し量り本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活歴、生活環境を理解して、居心地の良い生活が出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートを活用したり、毎日の申し送りカンファレンスで入居者様の現状把握に努めている。又日々の生活からご本人の能力の把握が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に不明な事はご家族に確認したり職員と話し合いをし、現状に合った介護計画を作成するようにしている。	介護計画の見直しは3~4か月毎に行われている。全職員でモニタリング評価を行い、計画作成者を中心にカンファレンスにて協議、情報の共有を図り作成している。本人、家族の要望や意向は計画書の説明時に伺い、修正に応じている。	日々の生活記録には実施したケアを記録しているが、介護計画との連動性が認められない。ケアの実践や結果、気づき、工夫、利用者が発した言葉などを書き記し、次の計画に活かされる記録の工夫に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様の情報は細かく記録するよう心掛けている。各入居者様ごとにバイタルチェック表を作り記載し変化に気づけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のその時々状況に合わせ柔軟に対応できる体制づくりを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地方からきている方もおられ活用されていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは緊密な状態にあり、体調変化があった場合にはかかりつけ医に連絡相談している。又専門受診が必要な場合も、家族とも相談した上で専門医受診を行っている。	利用者全員が24時間連携体制が整備されている協力医療機関と契約している。週1度の訪問看護師も同医療機関からの派遣で迅速な対応が成されている。専門医への受診は家族と職員で支援し、情報の共有は図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護来館。かかりつけ医と同じクリニックの為体調変化時はスピーディーに医師に繋がり指示がある。職員の不安な点に対してもアドバイスを頂けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の都度、病状の確認等地域連携室・MSW等を通して情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に方針の共有を行っている。	重度化した場合における介護(看取り介護)の指針を作成し、契約時に説明し同意を得ている。今回初めて看取りを経験し、状況変化時には繰り返しの話し合いと方針の共有が成され、主治医の指導の下に職員がチームとなって、利用者、家族の望む看取り支援を行っている。経験を踏まえて、改めてターミナルケア研修を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は定期的を確認している。AEDの講習に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄消防署設備業者等の協力を得ながら、避難訓練を行っているが、地域との協力体制が整っていない。	今年度は防火設備会社の立ち合いの下に、昼・夜想定での火災避難訓練を実施しているが、地震などの自然災害訓練の実施には至っていない。備蓄品の確保、AEDの講習、急変時対応の定期確認は行っている。	地震や水害等の自然災害や停電などの予期せぬ事態を想定した災害対策への取り組みに期待する。実施時の状況や結果、課題を必ず記録に残し、次回の訓練に活かす事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の行動や様子から、対応している。声掛けには職員同士注意しあっている。	接遇研修での学びを活かし、記録簿は居室番号で記載し、言葉かけも尊厳を損ねないように注意を払っている。トイレ、浴室、居室等の空間ではプライバシー優先の対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日により、又時間的な問題もあり希望に添えていないことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来る様職員と会話しながら一緒に選んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をボードに掲示し、それを見ながら入居者様と会話を膨らませている。出来ることが可能な入居者様と食事の準備や片付けを行っている。	一汁三菜の献立と食材は委託しているが、時にはアレンジ料理を提供している。誕生会では職員手作りのケーキで祝い、季節行事では要望に応じて出前寿司や特別食のおせち料理など、食の楽しみを支えている。利用者の希望に沿って、食事の準備に力を借っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記載を行い日々の変化に気づける様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアを行い必要時歯科受診や、衛生士指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ブリストルスケールを活用し、便形状を数値化し、その方の排便周期や量を記載している。又、それを元に誘導している。	職員は排泄パターンを把握し、習慣や生活リズムに沿って、声掛け、手つなぎ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。ベッド上の交換、下着、オムツ、リハパン等の選択も様々な角度から検討している。便秘予防は薬だけに頼らず、食品を考慮し日々検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に応じて、牛乳やヨーグルトなど、乳製品や果物を召し上がっていただくなど工夫している。極力便秘薬を使用しないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人に確認してから入浴している。便汚染があった場合には対応できるようにしている。	入浴は毎日可能で週2～3回を目安に、都度お湯を張替えて、全員が一番風呂を楽しんでいる。浴槽は3方向から複数救助し易くなっている。入浴時は昔話で会話が弾み、ゆったりと寛いでいる。拒む方には毎日声掛けを工夫し、シャワー浴や清拭で清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録・申し送り、本人の状況を見て、睡眠を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの薬について理解しセット時、服薬時はダブルチェックを実施し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる様に一人ひとりの生活歴や力を生かした役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援をしている	洗濯物のハンガー掛け、たたみ、調理の下ごしらえ、食器洗い等職員と一緒にやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の実情を伝え有効な対策を提案して頂いた。	今年度は自粛の下に、テラスでの日光浴、洗濯物干しなどで外気の風に触れている。家族の協力の下、自宅訪問や通院時のドライブで気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、お金が紛失したなどの事故防止の為、ご家族様相談し所持は控えてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話を活用し、ご家族様と会話したり出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度に気を配り定期的に換気を行っている。又、季節を感じて頂けるようフローアを中心に入居者様を巻き込み飾りつけを行っている。少しでも居心地がよくなるよう努めている。	藻岩山の麓に建ち、窓からの眺望も良く、札幌の市街地が見渡せ、四季の美しさが楽しめる。ソファや食卓椅子をビタミカラーで統一し、天井が高くテラスが設置され明るく開放感がある。大きなクリスマスツリーが飾られ華やかさを醸し出している。温・湿度管理や清掃等も行き届き、定期的に換気も行っている。新聞や雑誌が置かれ、日常生活感を程良く取り入れ、快適に過ごせる環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にはご本人が使い慣れたものや愛着のあるものを持ち込んで頂くようご家族様にお話をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が使い慣れたものや愛着のあるものを持ち込んで頂くようご家族様にお話をしている。	8畳の居室にはクローゼットが設置され、ベット、カーテンが用意されている。筆筒、椅子、寝具など持ち込み、お気に入りのぬいぐるみや家族写真を手元に置き、自宅とのギャップを無くし、ゆっくり過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど入居者様のADL変化に伴い、手すり等設置したり、家具のレイアウトを変更したり工夫をしている。		